

▶ 常設展示から

平和と人権資料館は、本市の「人権擁護都市宣言」〔昭和55（1980）年〕、「非核平和都市宣言」〔昭和58（1983）年〕の趣旨を生かし、戦争の悲惨さ、平和の尊さ、人権の大切さ等を次世代に伝える施設として開館。館内を平和・人権・環境の三つのゾーンに分け、いずれも「資料展示」と「感じる展示」で構成しています。

平和ゾーン

「竜神駅ガード下における避難者死体焼却の図」(岸谷勢蔵 画／ 堺市博物館 蔵)(下左写真)をはじめ数点の絵を再現しています。これは昭和20（1945）年7月10日未明の第4次堺大空襲による惨状を描いたものです。奥行き6mもないこのガード下には、空襲で逃げ場を失った200～300人の人たちが折り重なって亡くなったと言われていました。なかには立ったまま亡くなった人もいたという凄まじい光景だったということです。

昨年8月、当館を見学された団体の依頼でおこなわれた講話会において、ピースメッセンジャーの中谷満雄さん(堺区在住 昭和7(1932)年生まれ 当時農業学校1年)も、焼夷弾で片腕を無くした女性とすれ違ったが、なにもできずタオルを手渡してあげたこと、延焼で焼け落ちる我が家を父親と泣きながら見ていたことなど、その時の様子を昨日のこのように生々しく語られました(下右写真)。講話を聞かれた方からは「語り継ぐことの大切さ、語り継がれたことを語り継いでいくことのさらなる大切さを感じる」との感想が寄せられました。

*ピースメッセンジャー(堺大空襲 語り部登録ボランティア)の詳しいことについては、ホームページをご覧ください。

<平和ゾーン>



<中谷満雄さんの講話の様子>



平成29(2017)年入館者状況

